Best Shop Bs-Summit BSサミット

発行所
BSサミット事業協同組合 広報委員会
〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-4 新京橋ビル3F TEL:03-3538-2900
www.bs-summit.jp

BSサミットニュース
BS Summit NEWS
Vol. 70
BS Summit NEWS vol.70 2025.1.31

BSサミットニュース TOPICS

BSサミット新春賀詞交歓会を開催! ―― 1・2面
安全な自動車の車体を確保する議員連盟 活動報告 ―― 3面
組合員訪問 / 株式会社ひまわりコーポレーション(大阪支部) ―― 4面
LMG活動報告「経営労務セミナー&価格交渉力向上セミナー」 ―― 5面
BS TECHNICAL「車両制御履歴の基礎知識と活用方法」 ―― 6面
IAAE 2025にBSサミットブースを出展 ―― 8面

「意識改革」「経営改革」を共に築いていく一年に!

2025年BSサミット事業協同組合 新春賀詞交歓会を開催

2025年1月15日(水)、東京港区のANAインターコンチネンタルホテル東京にて「2025年BSサミット事業協同組合 新春賀詞交歓会」を開催。政界をはじめ関係省庁からの来賓(2面・表参照)、損害保険会社、ロードサービスアシスタンス会社、協賛会社が多数参集した本会冒頭の挨拶で、磯部君男理事長は「今年は特に力を入れて法令遵守に取り組んで参ります」と意気込みを語った。

変化・変革を求められる

理事長挨拶より抜粋

2025年はどんな一年になるのでしょうか? 日本では石破政権が誕生し、アメリカではトランプ氏が4年ぶりに大統領の座に返り咲きました。日米両国のリーダー交代は「変化」による結果だと思います。「変化」「変革」に迫られているのは、自動車整備業界も同じです。今後、我々が自動車技術の進化に対応してアフターサービスを提供し続けるには、自動車メーカーとのパートナーシップが欠かせません。自動車メーカーとの関係を強固なものにする前提条件となるのがコンプライアンスではないでしょうか。昨今、自動車業界では不正事案が相次ぎ発覚しています。ユーザーを欺き、信頼を損ねる行為は許されるはずがなく、今年は特に力を入れて法令遵守に取り組んで参ります。

「整備事業者はこれまでの延長戦では生き残れない」――。言われ続けて久しい言葉ですが、今年は、例年以上に我々自身の「意識改革」「経営改革」が求められる1年になるかもしれません。自動車新技術への対応だけでなく、労務費の適正化や人手不足、カーボンニュートラルといった経営課題への対応も不可欠になっているからです。特に労務費の適正化については、大きな経営課題のひとつだと認識しています。整備士不足が深刻化する中での人材獲得と定着には、従業員の処遇改善が欠かせません。そこでBSサミットでは「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する自主行動計画」を策定しました。労務費の適正化は整備士不足解消の一助につながるはずで確かな実行性をもって取り組んでいきます。

組合員から法令違反を出さないという決意

昨年来、自動車業界では法令違反を伴う不正事案が相次いで発生しています。法令遵守への意識が欠如する自動車業界全体に対して社会から厳しい目が向けられているのが実情です。仕事は公正・公平な取引が基本です。正当な仕事を行い、正当な対価をいただく、これは車体整備でも分解整備でも車検でも保険でも同じです。令和6年8月29日に国土交通省がとりまとめた「車体整備の消費者に対する透明性確保に向けたガイドライン」は、その指針となるものです。また同日、国土交通省はビッグモーターの不正事案を受け、監査担当職員からなる「特別検討チーム」を設置し、再発防止の報告書を取りまとめました。この報告書に基づき、令和6年度中に自動車整備事業者に対する行政処分の改訂が公示・施行することが予定されています。整備工場の法令遵守に対する行政からの要求はこれまで以上に更に強く改善を迫る内容となっていきます。

こうした社会要請に対してBSサミット組合員は、いち早く強いコンプライアンス意識をもって真摯に取組みを進めています。整備にまつわる法令、道路運送車両法はもとより保険業法、労働基準法、とりわけロードサービス事業における労働基準法への対応、また車体整備業における労働安全衛生法への対応についてはBSサミットの重点取組み課題として推進してまいります。BSサミットでは法令違反を未然に防ぐ取り組みの第1弾として新年度の5月1日より組合員の新規加入時に、第三者による「認証・指定工場業務コンプライアンスチェック」の実施を義務化します。同様に、既存の認証・指定工場組合員に対しても年一回、第三者によるコンプライアンスチェックの実施とエビデンスの提出を義務化します。第三者の目を入れることにより、BSサミット組合員から絶対に法令違反を出さないという決意で進めていきます

自動車メーカーとの協力関係

自動車メーカーとのパートナーシップは、我々が最新技術に対応した安心安全なモビリティサービスを提供し続けるために不可欠なものです。ただ、自動車メーカーとの協力関係を作るには、ディーラーに準じる設備や技術、教育体制を含めた人材、そしてコンプライアンス対応が求められます。こうした条件をクリアして初めて、自動車メーカーから信頼され、仕事を依頼される認定事業者として認められることになるのです。BSサミットが2023年より推進するDMS(メーカー・ダイレクトメンテナンスソリューション)は、まさにこれを具現化したものです。メーカーが考えるアフターサービスネットワークの一翼をディーラー工場と共に担うのです。メーカーからの情報公開については、行政機関との連携が必要となるケースもあるでしょう。すでにBSサミットでは国土交通省を通してADAS自動運転時代に向けた修理情報公開、教育支援等の検討を要請しています。

いま、我々の主力事業である車体整備はかつてない大きな局面を迎えています。BSサミットとしては引き続きDRPやDMSを推進して参りますが同時に、各組合員が自らの力で顧客を開拓する自助努力も必要となります。自ら変革を仕掛ける実践集団としてその強い気持ちをもって「意識改革」「経営改革」を皆さんとの絆を大切にしながら共に築いていく一年にしようではありませんか。

ブロードリーフの3つのDXソリューション

クラウド型鈑金工場業務支援システム
Re Repair.c
ブロードリーフは新しいクラウドサービスを本格リリースしました。
クラウドだからできる拡張性の高いアプリケーションは業務に革新をもたらします。
らくらく導入、かんたん操作。『日常業務の効率化』をサポート!
直感操作
伝票発行
商談管理
事業内容・事業規模にあった商品パックを用意しています!
軽鈑金のみ
メカニック3人以下
大規模

車検業務の効率化を支援!
Ma スーパー検査員
スーパー検査員はミスなく、漏れのない記録簿の作成をサポートする指定整備工場様の車検に特化したクラウド型車検・点検支援システムです。
コンプライアンスの強化と業務効率化をサポート
インストール不要、端末フリー
法改正、技術進化、監査に対する不安を解消
OSS電子申請対応※
特定整備制度にも対応
あなたの車検業務がスムーズに!

電子帳簿保存法対応は、おまかせ!
DX 電帳
電帳.DXなら、作成した電子帳票が自動登録されるので、スムーズかつ簡単に電子保存をすることが可能になります。
電帳.DXで業務をまるごと電子化
ペーパーレスで事務所スッキリ! 保管スペース削減!
検索・閲覧が容易なので書類を探す時間を大幅短縮!
書類の郵送にかかる手間・コストを削減!
電子帳簿保存法、未対応の方必見!
導入ユーザーインタビュー動画
株式会社 REFFECT 様 (4分9秒)
ご視聴はこちらから!

株式会社ブロードリーフ
〒140-0002 東京都品川区東品川4丁目13-14 グラスキューブ品川8F
https://www.broadleaf.co.jp/
0120-47-2610
受付時間 9:00~17:30(土日祝・年末年始を除く)
ブロードリーフ 検索

次なる飛躍に向けた１年
自動車メーカーに信頼され、ユーザーからも選ばれる工場へ

今年も多数の来賓が参加
盛会にて新たな一年をスタート！

第一部　全体会議

2025年新春賀詞交歓会の第一部・全体会議は、増田副理事長による開会の辞で幕を明けた。３００名を超える参加者が列席した本会は、基本宣言・組織理念・活動指針の唱和から、磯部理事長の挨拶（1面参照）と続いたのちに、来賓の皆様から多数の祝辞が述べられた。

まず、安全な自動車の車体を確保する議員連盟（以下、議員連盟）・顧問、BSサミット顧問の中川秀直先生は「日産、ホンダ、ソニーという会社が一緒になるかもしれない。どんどん変化していくのが世の中ですから、常に目を凝らしながら、お互いの絆を大切にしながら新しい四半世紀進んでいく。そういう25年であってほしいと心から願います」と、変化への対応の重要さを強調した。

続いて、新たに議員連盟の会長に就任した自由民主党参議院議員山本順三先生は「今日は国土交通省物流・自動車局からも大勢の方が来られておりますけれども、ぜひ一体になって努力をしていかなければならないというふうに思っております。皆様方から貴重な御意見を聞かせてもらう中で、我々としてもやるべきことをしっかりやっていく、その努力を怠りなく頑張ってまいりたい」と熱意を伝えた。

中川秀直先生

赤池誠章先生

山本順三先生

斉藤鉄夫先生

また、議員連盟・事務局長を務める自由民主党参議院議員　赤池誠章先生は「自動車業界は我が国最大の産業であります。若い方々にこの業界に来ていただく、その為の処遇改善、さまざまな補助金の活用、そして将来に夢のある仕事だということをアピールをしてまいりたいと存じます」と協力の姿勢を示した。

2020年にBSサミットと包括的業務提携を締結した株式会社オートバックスセブンの小林喜夫巳特別顧問は「5年前に磯部理事長から色々な垣根を越えて一緒にやっていこうと言って頂き、いろんな形で連携をしてきました。これからも一緒にスピードを上げて変革をする、改革をする、そういったことを忘れないで構造改革をしていくことを皆さんと約束をして、私の挨拶とさせて頂きます」と連携を深めていく方針を述べた。

また、BSサミットがDMSにおいて連携を模索しているトヨタ自動車株式会社国内事業部法人ＶＣ事業室事業企画グループの西川智祥グループ長からは「我々メーカーがどれだけ頑丈に作ったと思っている車であっても、皆様のメンテナンスがなければその実力や魅力が十分発揮できないと思っております。メーカーもサービスと一体になってやっていくことが重要だと思っておりまして、ＤＭＳ、我々でいう所のメンテナンス統括をぜひ一緒にやっていただければというふうに思っております」と同社のサービスに関する方針について言及があった。さらに、列席した複数の損害保険会社、ロードサービスアシスタンス会社の代表者からも、BSサミットへの期待や激励に溢れた温かい言葉が送られ、組合員一同、身の引き締まる思いを抱く会となった。

次に、経済産業省中小企業庁の事業環境部取引課長鮫島大幸氏が登壇し「政府としても、交渉なき一方的な価格交渉を下請法の改正で禁止をする、それによって発注者との間での交渉をしやすくする、そういう方針を打ち出してまいりたいと思っています」と具体的な考えを伝えた。また、公正取引委員会　事務総局経済取引局取引部企業取引課課長の亀井明紀氏は「先生方のご尽力により、こういう場にもお招き頂けており、皆様から生の声をお伺いできる大変よい機会を頂いていると思っております。引き続き頑張ってまいりたいと思いますので、ご指導よろしくお願い致します」と新春賀詞交歓会をきっかけに親睦を深めて協力関係を強化したい考えを明らかにした。

来賓からの挨拶に続き、元国土交通省事務次官　BSサミット顧問　本田勝氏から乾杯の発声があり歓談へと移った。新春賀詞交歓会は時間いっぱい交流を図った後、石井副理事長による閉会の辞をもって閉幕した。

第二部　懇親会

休憩を挟み行われた第二部・懇親会にも、引き続き多数の来賓が参加し、華やかな会として懇親を深めた。黒木専務理事は開会の辞で「BSサミットは活動指針に謳っている通り、コンプライアンスを遵守する組織であることを改めて宣言いたします」と明言した。

そして懇親会でもまた、来賓による挨拶が行われた。はじめに国土交通省物流・自動車局長鶴田浩久氏が登壇し、急な用事で欠席された中野国土交通大臣からの挨拶文を代読した。中野国土交通大臣からの挨拶文には「現在、政府を挙げて労務費の適切な転嫁を進めていますが、国土交通省といたしましても、関係省庁と連携し、BSサミットの皆様をはじめとする業界の皆様の声を伺いながら、必要な施策を実施し、修理費への適切な転嫁をしっかり進めてまいります」と、整備事業者が抱える問題に対する行政の支援について明示があった。

続いて、公明党代表衆議院議員斉藤鉄夫先生が登壇し「日本の経済社会を支えるこの自動車産業、特に重要なアフターマーケット部分において、しっかり人材が集まってくる魅力ある業界にしなければ、日本の経済の将来はない、日本社会の将来がないということを強く私たちも考えております」と激励の祝辞を述べた。

第一部　全体会議で来賓挨拶を行う株式会社オートバックスセブンの小林喜夫巳特別顧問（右）とトヨタ自動車株式会社　国内事業部法人ＶＣ事業室事業企画グループの西川智祥グループ長（左）

懇親会で乾杯の発声を行う本田勝顧問

政界からの来賓

自由民主党	元自由民主党幹事長 元内閣官房長官 自由民主党自動車議員連盟　最高顧問 安全な自動車の車体を確保する議員連盟　顧問 BSサミット顧問	中川　秀直先生
自由民主党	前参議院予算委員長 元国家公安委員長 元国土交通副大臣 安全な自動車の車体を確保する議員連盟　会長 参議院議員	山本　順三先生
自由民主党	元副幹事長 元内閣府副大臣 政務調査会副会長 安全な自動車の車体を確保する議員連盟　事務局長 参議院議員	赤池　誠章先生
公明党	公明党代表 前国土交通大臣 元環境大臣 衆議院議員	斉藤　鉄夫先生

官庁関係の来賓

国土交通省	物流・自動車局　局長	鶴田　浩久氏
	物流・自動車局　次長	久保田秀暢氏
	物流・自動車局 自動車整備課　整備課長	多田　善隆氏
	物流・自動車局 自動車整備課 整備事業指導官	村井　章展氏
	物流・自動車局 自動車整備課　課長補佐	富岡　孝行氏
経済産業省	中小企業庁　事業環境部 取引課長	鮫島　大幸氏
公正取引委員会	事務総局　経済取引局　取引部 企業取引課　課長	亀井　明紀氏

SMAS移動革命
次世代モビリティの最適解で、ビジネスを加速、拡大する。
エスマスはサステナブルな社会に向けたモビリティプラットフォーマー。直面するサステナビリティの課題をEVワンストップサービスで解決。MaaS
アプリで社員の移動をまるごと管理。クルマの手配、出張、アルコールチェックなど便利と安全をしっかりサポート。グローバルサービスで海外進出もおまかせ。モビリティ業務削減など、あらゆるビジネス課題を解決。
ソリューションを。エスマスはサステナブルなモビリティ社会へ、一歩先の
できます。できます。SMASで、できます。
SMAS
住友三井オートサービス
invite to new business mobility.
東京営業第一部
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
東京オペラシティビル
TEL: 03-5302-9893

政治の世界から安全で安心な車社会を支える

安全な自動車の車体を確保する議員連盟 事務局長 赤池誠章議員に聞く！

BSサミットは自動車ユーザーへの安心・安全な車体整備の提供をコンセプトにした「安全な自動車の車体を確保する議員連盟」を2016年12月に発足。日本損害保険協会、国土交通省、金融庁、中小企業庁、公正取引委員会などの関係省庁も参画し、車体整備業界が抱える問題の解決に向けた活動を展開している。本稿では、その具体的な活動について安全な自動車の車体を確保する議員連盟の事務局長を務め活動を牽引する赤池誠章参議院議員に話を伺った。

2023年5月に行われた安全な自動車の車体を確保する議員連盟 総会より

補正予算と来年度予算で切れ目なく支援！

安全な自動車の車体を確保する議員連盟（以下、議連）事務局長 自由民主党 参議院議員の赤池誠章です。日頃は格別のご高配を賜り感謝申し上げます。さて、我々議連は自動車整備事業者の皆様からの声を政治や行政の現場に届けることで、業界が抱える問題解決に寄与できるよう活動しております。

例えば、昨年末に補正予算約十四兆円が成立、来年度予算案は過去最大の百十五兆円余が国会に提出されていますが、今回の予算等について、自動車整備業に関するものとして、新技術対応や生産性向上、人材確保等に活用できる支援策が盛り込まれています。

第一に、価格交渉と転嫁への支援があります。国交省では、整備士の人材確保・育成に向け、働きやすい職場づくりの先進的取り組み及び賃金状況の調査や、事故車修理の標準作業時間や工賃実態の調査と工賃単価交渉の好事例の公表を行います。また、先進技術教材の活用や整備技術向上の研修を支援し、研修の強化を図ります。併せて、昨年夏から専用の情報提供窓口が開設され、皆様から情報を頂きましたが、それら情報に基づき、価格交渉と転嫁の指針（ガイドライン）が年度中に策定予定となっています。

第二の支援策は、スキャンツール補助金です。昨年十月からOBD検査が始まり、スキャンツール（パソコン含む）補助金については、今年度も七億円予算が順調に執行されました。昨年末の補正予算では十・五億円、来年度は三・六億円が計上され、再度公募が開始されます。上限は十五万円・三分の一です。

第三の支援策は、省力化投資補助金です。人手不足解消に効果がある製品の導入を支援します。対象の製品は、全国中小企業団体中央会が運営している中小企業省力化投資補助金というサイトにカタログが掲載されています。購入方法や支援の申請等もそのサイトで説明されています。自動車整備関係では、①自動調色システム、②スポット溶接機、③パルス制御溶接機が掲載されています。上限は、一千五百万円・二分の一です。

第四の支援策は、電動車のための充電インフラ補助金です。ご要望を頂いていた外部給電器への補助金に関しては、既に予算は確保されており、現在、詳細検討中で、早晩、申請要項が公表される予定です。

第五の支援策は、IT導入補助金です。業務効率化やデジタル化の推進、セキュリティ対策に向けたITツール等の導入費用を支援します。上限は四百五十万円・二分の一です。

第六の支援策は、ものづくり補助金です。生産性向上や持続的な賃上げに向けた革新的な新製品・新サービスの開発に必要な設備投資等を支援します。上限は三千五百万円・二分の一です。

第七の支援策は、省エネ・非化石転換補助金です。省エネと脱炭素化を同時に推進すべく、高効率空調等、補助対象設備のリストから機器を選択し更新する場合、省エネ率十%以上等の要件を条件に支援します。上限は一億円・三分の一です。

第八の支援策は、事業承継・M&A補助金です。事業承継に際しての設備投資や、M&A・PMI（経営統合）の専門家活用費用等を支援します。上限は一千万円・二分の一です。

予算関係以外にも、税制支援策があります。まず、賃上げ税制として、全雇用者の給与等支給額（前年度比）がプラス一・五%なら税額控除率は十五%、プラス二・五%なら三十%となります。さらに、前年度比プラス五%なら税額控除率を十%上乗せし、条件によっては更なる上乗せ措置があります。そして、企業が社員の奨学金返還分を日本学生支援機構に代理返還すれば、その分を税制支援する制度もあります。現在、約二千社、七千人が活用中です。

本年七月には参院選があり、私にとっては三度目の挑戦となります。今後も安全で安心な車社会の実現に全力を尽くしてまいりますので、変わらぬご指導賜りますようお願い申し上げます。

代理、安全な自動車の車体を確保する議員連盟事務局長等。参議院議員二期目。

赤池 誠章（あかいけ まさあき）

昭和三十六年山梨県生まれ。明治大学卒。松下政経塾出身。自動車整備士養成の専門学校長を経て、衆議院議員に初当選。平成二十五年の参院選比例代表（全国区）で国政復帰。国土交通委員会理事、文部科学大臣政務官、内閣府副大臣等を務め、現在、自民党政務調査会副会長三期目、自動車整備議員連盟幹事長

活動報告はこちらから

オートアフターマーケット連絡協議会

各業界の動きから次の商機のヒントを探る

2025年度 1月定例会を開催 業界の最新状況と動向が共有される

1月21日（火）、海事センタービル4階 会議室（東京都千代田区麹町4−5）にて「オートアフターマーケット連絡協議会」の定例会が開催された。

同協議会は、自動車アフターマーケットに関わる幅広い事業者の情報交流の場を創出し、それぞれのビジネスの拡大や発展に向けた議論を行い、自動車ユーザーの便益拡大に寄与する活動を通じて社会に貢献することを目的に、2012年に発足。BSサミットの藤野利浩副理事長が代表理事を務め、現在はBSサミット事業協同組合、全日本ロータス同友会、株式会社オートバックスセブンを始め、自動車アフターマーケットの各業界団体・企業など19社が会員として名を連ねている。

定例会は、同協議会の代表理事である藤野副理事長から「明けましておめでとうございます。今日はオートバックスの住野相談役に、オートバックスの事業の変遷と戦略についてお話し頂く予定です。実は昨年、相談役のコンサートを“オートバックスをこんな苦労して作った”というテーマで講演が行われました。非常に興味深いお話だったので、多分我々にとって非常に参考になる話だろうと感じたので、本日お願いしました。楽しみにして聞いて頂ければと思います」と新年の挨拶と今回の講演についての説明がなされた。

冒頭挨拶を行う藤野副理事長

定例会での報告事項

定例会では、各会員から最新状況と業界動向の情報交換が行われ、BSサミット事業協同組合から、まずは業界動向として「パブリックコメントも出ていますが、自動車整備事業者に対する行政処分等の基準について改正があるということです。これはビッグモーターの件を受けて改正に至っており、①組織的悪質性が認められる違反に対する処分の追加、②認証事業者に対する違反点数の見直し、③自主申告を行った自動車検査員について一部処分の軽減などが盛り込まれています」と報告を行い、続いて最新状況として「この報告を去年の12月に国土交通省整備課から受け、メーカーとの連携を進めるにあたり、組合員から法令違反が出てしまうことは、BSサミットとしての信頼を大きく失墜させるものであるため、指定工場を保有している組合員は年に一度、第三者による工場監査を義務付けました」と報告した。

講演を行う株式会社オートバックスセブン 住野公一相談役

住野公一氏による講演

続いて、本会の発起人の一人でもある株式会社オートバックスセブン 相談役 住野公一氏より「オートバックスの事業の変遷と戦略について」というテーマで講演が行われた。住野氏はオートバックスについて、昭和40年代のモータリゼーションの波に乗り、アメリカのオートセンターの事例を参考にして設立され、創業者（住野氏の父）は当時の業界の縛りを打破し、タイヤやバッテリー、オイルなどを一箇所で購入できる利便性を提供することで成功を収めたことを説明した。その中で住野氏は、怒りの経営から笑いの経営へシフトすることで社員の実力を引き出すと改革を進めたこと、組織のために生きるのではなく、個人の力を引き出すことが重要であり、肩書きや序列をなくし、現場の人に力と権限を与えるべきであるという持論を展開した。

訪問特定整備の実施規程案について

業界動向ニュース

昨今、インターネットによる自動車整備の予約の普及や、運送事業者等が大量に保有する車両の点検整備の効率化などを背景として、自動車ユーザー等が認証事業場に車両を持ち込むことなく簡易な特定整備を受けられる訪問整備へのニーズが高まっている。

この事実を受け国土交通省は、道路運送車両法施工規則を改正し、告示において、いわゆる「訪問特定整備」を行う場合に必要となる実施規程について検討を進め、令和7年1月8日に「自動車特定整備事業者が事業場以外の場所において特定整備を行う場合の実施規定案について」を公示、広く国民からの意見を募集するためにパブリックコメントの募集を開始（令和7年2月7日まで）した。

実施規定案には、その概要として、事業場以外の場所において行うことのできる特定整備の種類についてや、必要となる事前の届出について、訪問特定整備または限定訪問特定整備に従事する者の要件、訪問特定整備等に従事する者に対する教育について、さらにはその他遵守事項について記載されている。

今後の予定としては、令和7年3月に公布、同年6月に施行と急ピッチで進むこととなる。訪問整備に関して明確なルールが作られることとなるので、注視が必要ではないだろうか？

組合員訪問

近畿ブロック　大阪支部　株式会社ひまわりコーポレーション

トータルカーサービス実現に向け動きを活発化
地域連携で顧客の利便性を向上

今回の組合員訪問は、大阪市の東部に位置する鶴見区にある「株式会社ひまわりコーポレーション」だ。平成2年に開催された「花の万博」の会場となった花博記念公園鶴見緑地にも程近く、地下鉄長堀鶴見緑地線の延伸、学研都市線のJR東西線乗り入れ以降、着々と人口が増加したエリアである。車販（スタンドモータース）から始まり5店舗まで拡大した拠点を集約し、平成5年から今の場所で「ひまわりコーポレーション」として新たにスタート。13年前からは超低金利ローンでの新車販売だけでなく、ワンストップサービスを目指して「コバック」に加入し車検・整備を始め、7年前には車検管理し、実践的な支援を行なっている。加盟企業は全国100社、加盟店は250店舗超と自動車業界で大きな影響力を持っている。販売に特徴を持つ同社ではあるが、時代の流れに合わせお客様一人ひとりと永い付き合いができるお店を目指し、車検や車の買取、さらには保険代理店や鈑金などのアフターサービスに注力。13年前に始めた車検は、今では年間8000台にまで成長している。また昨年よりスタートしたコーティング事業は、合あたりの粗利を上げることに貢献しているという。

手作り感溢れる車販フロント

軽自動車の新車が並ぶ

机上にはオプションメニューの案内

ひまわりコーポレーションの歴史

同社の創業は1975年（本人も希望があり2人が3級整備士取得）するなど、適材適所で人材を回しているという。また営業職のスタッフにはファイナンシャルプランナーの資格取得を推奨している。また、同社では作業環境の改善にも注力しており、昨年の夏には猛暑対策として工場の屋根に断熱材を入れたという。また、洗車機や純水機、廃油キャビネットなど作業の省力化に繋がる設備投資も積極的に行っていた。

これらの取り組みが功を奏してか、最近には同社に出入りをしていた業者の方から入社の希望があったという。お客様に対してだけでなく、外注先であったり元請けなどに対する対応力が評価された好事例である。

廃油処理を簡単に行えるようにと納入したドレンキャビネット

ヒトへの投資

優れた販売ノウハウを持つ同社の一番の強みは「ヒト」であると言う。企業は「ヒト、モノ、カネ」で成り立っており、「モノとカネ」は真似ることができても「ヒト」に限っては絶対に真似ることができない。自社が地域No.1の自動車販売店で在り続ける理由はここにあると、自信を伺わせた。

採用には苦労をしているというが、それでも毎年新卒を採用するように取り組んでいるという。同社の場合は、営業職で採用した人材に資格取得補助を行うことで整備スタッフにコンバート

BSサミット加入、見据える先は

ひまわりコーポレーションがBSサミットに加入したのは2024年1月、BSサミットがモビリティサービスの全国ネットワーク構築に向け、新たに指定整備工場を組合員として迎え入れたタイミングで、初の整備系組合員のうちの1社である。

株式会社日本カーズ・コーポレーション（本社・静岡県富士市）の提供するFC「軽が安い」の繋がりで、株式会社カマド（静岡支部）の小林雅彦教育統合委員長から、同社が加盟している車検FC「コバック」の繋がりで、坂井モーター株式会社（静岡支部）の坂井光蔵組合員拡充委員長から勧誘を受け、加入に至ったという。また、株式会社ミツイオートサービスとは自動車で数分の位置にあるため、以前より重整備や中破以上の鈑金塗装を外注している。

BSサミット担当の豊田周一郎専務は「BP業界との接点は新しい刺激になった。今後は自動車メーカーに認められる工場を目指し、技術情報の取得など自社のお客様を守るために必要な情報を入手できる体制を作りたい」と話す。

◇　◇　◇

販売に強みを持つひまわりコーポレーションは、顧客の利便性を上げるためにサービスに注力し始め、自社ではやりきれない作業に関しては地域で強みを持つ事業者と連携をすることで解決をしている。これこそが、昨年より整備系組合員の受け入れをスタートしたBSサミットが目指す一つの形であり、お互いの強みを活かした連携のあるべき姿なのだろう。

（左）コーティング専門店に設置された純水機　（右）コーティング専門店レアーレの店先には普通車も陳列

大阪中央環状線沿いの好立地

車検工場にはひまわりのイラストが描かれている

昨年7月にはコーティング専門店「レアーレ」をオープン

BP経営マネジメントシステム
のお問い合わせは下記へ
コグニ7で作成した見積書をベースに
『工程管理』、『作業状況管理』、
『売上粗利管理』、『担当者別売上管理』
が実現します
全国販売・保守サポート承ります！！
【代車状況一覧画面】
【作業状況一覧画面】
【担当者作業状況画面】
Emotional Business Enhancer
EBE inc.　株式会社EBE（イーバ）
東京都千代田区神田淡路町2-23-1 お茶の水ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ4F
TEL:03-5298-1851／FAX:03-5298-1852
http://www.e-b-e.co.jp/

LMG活動報告　経営労務セミナー＆価格交渉力向上セミナーを開催

2024年12月３日、ＴＯＤＡホール＆カンファレンス東京（東京都中央区）の会議室にてＬＭＧ主催の「経営労務セミナー＆価格交渉力向上セミナー」を開催。冒頭、若松ＬＭＧ会長は「午前は労務管理、午後は価格交渉のセミナーと長丁場になりますが、どちらも非常に重要な内容となります。知識を学ぶだけでなく行動に移して欲しいと思います」と、今回のセミナーが実践的な内容であることを告げ、参加者の気を引き締めた。

経営労務セミナー

午前中のプログラム「経営労務セミナー」は、ＬＭＧ会員の佐野秀輔氏（埼玉支部・株式会社ボデーショップ佐野）とＢＳサミットの顧問社労士を務める社労士・行政書士の井上久先生に講師となって頂き、会社の労務について総合的に学んだ。佐野氏は冒頭、労務の仕事は、給与計算、勤怠管理、保険手続き、福利厚生業務、安全衛生管理・就業規則作成、労使関係管理など幅広く、労働基準法、最低賃金法、労働安全法、労働者災害補償保険法、健康保険法、雇用保険法、育児・介護休業法など多くの法律と関連する業務であることを伝えた。その上で、“残業代未払い”や“労働安全衛生法を守れていない”など、整備・ＢＰ業界で多く見られる労務トラブルの例を挙げて注意を促した。また、佐野氏は最近話題になっている「リファラル採用」について説明し、会社の施策により従業員が懲役・罰金刑に処されるリスクがあることに言及した。

講師を務めた佐野秀輔氏（左）と井上久氏（右）

冒頭挨拶を行う若松ＬＭＧ会長

その上で万が一、労働基準監督署や従業員と採め事が起こった際には、他の従業員がその過程や結果を見ていることを意識し、今後の経営のためにも強い信念を持って対応することが重要であると説明した。自身のパートの最後に佐野氏は「労務に弱い会社は罰則・訴訟リスクが増加するだけでなく、他業界・他社の雇用条件と乖離が生まれることで、人材が雇用できなかったり、流出したりということも起こり得る時代になりました」と労務の重要性に触れて約40分に渡る講演を締め括った。

続いて事前に収集したアンケート結果に沿って、佐野氏及び井上先生が労務に関する様々な困り事に対して、過去の事例や法律に関する事実を踏まえたアドバイスを行った。最初のアンケート項目では、「労務トラブルに巻き込まれたことがある」と回答した人が約40%いることが分かり、いかに労務トラブルが身近なモノであるかが窺い知れる内容となった。また続く項目では「雇用に関する不安がある」と回答した人が約50%おり、井上先生からは就業規則をしっかりと確立させ、それを周知しておくことが重要であるとアドバイスがあった。その他にも、外国人労働者に関する悩みなど多くの困り事について説明が行われた。

価格交渉セミナー

午後のプログラム「価格交渉セミナー」には、株式会社ビジネス交渉戦略研究所　代表取締役　生駒正明氏を招いて、人材確保（待遇改善）のための価格交渉術について講演が行われた。生駒氏は、総合商社の丸紅株式会社に33年間勤務し、国内外１万件以上の交渉に携わってきた経験を元に「交渉準備の７ステップ」というノウハウを体系化している。セミナーは、

講師を務めた生駒正明氏

- 交渉の基本
- 交渉の心構え
- 交渉準備の７ステップ
- 交渉実践の７ステップ
- 価格交渉の３つの基本
- 価格交渉の３つの実践ポイント

の流れで話が進められ、さらにその後に値上げ交渉のロールプレイを行い、セミナーで学んだことの定着を促した。

生駒氏は冒頭、「交渉とは、利害が異なる相手と合意を目指す話し合い」だと定義した。その上で“目指す”という言葉に注釈を入れ“必ず合意しなければいけない”訳ではないと、交渉の基本について話した。そして「交渉は準備が９割」だと準備の重要性を伝え、

①チーム結成
②状況把握
③目的明確化
④目標設定
⑤選択肢作成
⑥ＢＡＴＮＡ（決裂時の次善策）準備
⑦交渉シナリオ作成

の７ステップに分けて交渉準備について詳細な説明が行われた。

休憩を挟み、後半では交渉実践の７ステップと題し、

①傾聴
②質問
③信頼関係構築
④強みとニーズの組合せ
⑤選択肢の提案戦略
⑥交渉戦術
⑦交渉合意

について具体的な例を挙げながら説明された。最後に生駒氏から価格交渉の実践ポイントとして重要なものは「客観的データの準備、プラスαの工夫の提案、価格以上の価値を伝える」という３点であることが告げられた。

全国的に慢性的な整備士不足が続く状態にある現在、賃上げや労働環境改善の原資となるサービス提供価格の交渉は喫緊の課題である。安全・安心のサービスを提供し続けるためにも、とても重要なセミナーとなった。

ＯＢＤ検査対象車入庫実績アンケートを実施
鈑金塗装で入庫の車は10台に１台が対象車！？

昨年10月より開始となったＯＢＤ検査ですが、対象車が国産車は令和８年10月１日以降の新型車（フルモデルチェンジ車）、輸入車は令和４年10月１日以降の新型車（フルモデルチェンジ車）であることから、我々独立系整備工場への車検入庫はまだまだ少数であると考えられる。しかしながら、一般整備や鈑金塗装、さらには中古車新規検査や中古車予備検査にも影響があることを考えると、中古車販売においてＯＢＤ検査対象車がどれくらい入庫しているのかについて把握しておくべきではないだろうか。そこでＯＢＤ検査開始から３ヶ月余りが経過した今回、ＬＭＧメンバーにご協力を頂き、昨年10月、11月、12月でＯＢＤ検査対象車入庫実績アンケートを行ったので、その結果についてお伝えしていきたい。

ＯＢＤ検査入庫実績アンケート

回答数：13社

10月									
車検		一般整備		鈑金		中古車		新車	
814	4	1358	5	1042	91	74	1	40	11
	0.49%		0.37%		8.73%		1.35%		27.50%

11月									
車検		一般整備		鈑金		中古車		新車	
897	12	1667	16	868	103	73	2	40	9
	1.34%		0.96%		11.87%		2.74%		22.50%

12月									
車検		一般整備		鈑金		中古車		新車	
774	4	1541	11	906	150	63	3	45	11
	0.52%		0.71%		16.56%		4.76%		24.44%

累計									
車検		一般整備		鈑金		中古車		新車	
2485	20	4566	32	2816	344	210	6	125	31
	0.80%		0.70%		12.22%		2.86%		24.80%

右記アンケート集計結果を見ると、車検や一般整備の対象車割合は１％未満と極めて低いが、一方で鈑金塗装の割合は10％を超えていることが分かる。これは非常に興味深い数字であり、実に10台に１台が対象車であるということだ。つまりＯＢＤ検査（確認）を行う準備を急がなければいけなかったのは、車検を中心とした指定工場ではなく、鈑金塗装を中心にした認証工場であったと言える。考えてみれば至極当然で、基本的には継続検査は初回３年であり、しかもその多くはディーラーのメンテナンスパックなどに含まれている。一方で鈑金塗装は、事故の可能性は車が新しかろうが古かろうが変わらないし、新しい車だからこそ小傷が気になるものである。ただし、誤解がないようにしておく必要があるのは、鈑金塗装を行った後にＯＢＤ検査は不要であり、ＯＢＤ確認においても行うことは義務ではない。

とはいえ、国土交通省によるＯＢＤ検査合理化の適用判断についての資料において「ＯＢＤ検査の合否に影響を及ぼす可能性のある作業」としてバンパー脱着が挙げられていることから、バンパー脱着により特定ＤＴＣが発生する可能性があることが明らかにされている。昨年12月に行われたＯＢＤ検査モニタリング会合においても、３１０件検出された安全系特定ＤＴＣの要因としてセンサの通信途絶があり、原因として修理後の結線忘れなどの可能性について国土交通省から指摘があった。整備事業者が保安基準不適合車を生み出すことがないように、整備であれ修理であれ自社から出庫する前に、少なからず保安基準に関わるＯＢＤ検査対象車の特定ＤＴＣがないことを確認することをＢＳサミットとしては推奨していく。

今後、ＯＢＤ検査対象車はどんどん増えていき、当然車検での入庫も右肩上がりで増えていくだろう。今後も定期的に本調査を行うことで、その推移を見守っていきたいと考えているので、組合員各位には積極的な協力をお願いしたい。

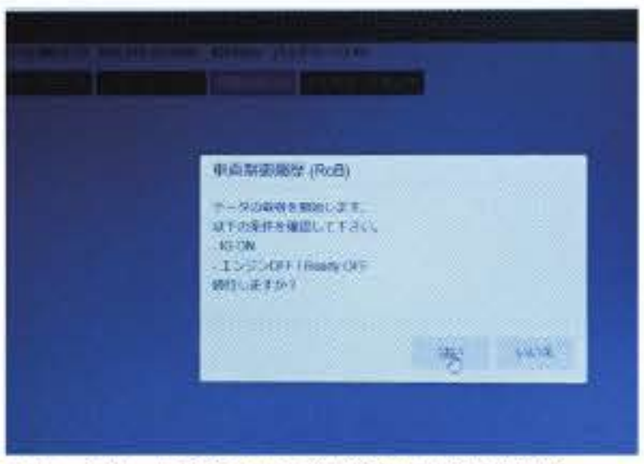
BS TECHNICAL
最新自動車技術・事故車修理

第33回
車両制御履歴の基礎知識と活用方法

TEXT：泉山 大（プロジェクトD）

車両制御履歴に係る整備作業の増加

車両制御履歴やRoB（アールオービー）という言葉をよく耳にするようになりました。トヨタ車の電子制御装置整備の付帯作業として「車両制御履歴消去」が整備要領書に記載されていますので、目にされている整備士は多いと思います。今後整備要領書には車両制御履歴に係る項目が増加することが予想されるため、その知識について正しく理解し、活用していくことが重要です。今回は、入庫機会が多いトヨタ車の車両制御履歴について解説いたします。


スキャンツールを使用した車両制御履歴の出力作業。

車両挙動の記録機能 運転操作や整備作業で記録

まず、車両制御履歴を指す英語のRoBとはRecord of Behaviorの頭文字をとった略称です。車体整備士の中では「アールオービー」と呼ばれている場合もあるため、両方の名称を覚えておくと便利です。Record of Behaviorを直訳すると「挙動の記録」になりますが、その名が示す通り、車両制御履歴とは下記に挙げる電子的な制御を行う装置における車両挙動の記録機能です。ある特定の車両挙動またはユーザーの運転操作、さらには整備作業や部品交換などをトリガーとして記録し、その時の制御データ、通常とは異なる車両挙動が検出されると、エアバッグセンサーASSYのEEPROMに記録されるというものです。トリガー検出時は前後数秒間の車両状態を示すECUデータ、セントラルゲートウェイコンピュータ（IG ON後経過時間）、テレマティクスシステムまたはナビゲーションシステムから取得した時間情報、あるいは、カメラセンサーによる画像データが記録される場合もあります。

車両制御履歴を記録するシステム例

- エンジンコントロール / ハイブリッドコントロール / オートマチックトランスミッション関連
- ブレーキコントロール関連
- 車両制御関連
- 緊急時関連
- エアバッグ関連
- クルーズコントロール関連
- ドライバー異常時対応システム関連
- プリクラッシュセーフティ関連
- レーンディパーチャーアラート / レーンキーピングアシスト関連
- パーキングサポートブレーキ関連
- 後方接近警報関連

出典：トヨタ自動車株式会社

DTC未検出 警告灯点灯時の故障診断

車両制御履歴は故障診断のサポート情報として活用できます。例えば、故障診断を行った際、DTCが検出されない場合は、車両制御履歴を出力し、確認のうえ診断を行っていく方法があります。車両制御履歴はトリガーを検出した際に記録されますが、それがDTCに変化することはありません。このような場合、DTCは未検出でも警告灯の点灯やマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。また、部品の取り外しでも車両制御履歴が記録される場合もあるため、今後注意を払うべき要素のひとつといえます。下表は車両制御履歴の項目例です。なお、近年は汎用スキャンツールにおいても車両制御履歴の出力から消去まで、多くの機種が対応しています。その際は、作業サポートから車両制御履歴の出力が行えます。

マルチインフォメーションディスプレイに表示された「販売店で点検してください」の警告。

車両制御履歴（RoB）のコードと項目例

コード	項目名
X0455	ステアリングセンサー誤組み付け
X2004	車輪速センサー異常測定
X208A	ステアリングセンサ0点初期化異常
X20A0	ABS
X2014	前方認識カメラ光軸未調整
X2085	電動PKBシステム異常
XF01B	ECUセキュリティキー未登録

出典：トヨタ自動車株式会社

車両制御履歴の確認と消去の留意点

次に車両制御履歴の確認時における留意点です。車両制御履歴の各データはトヨタ車の場合、トリガーごとに領域を分けて記録されており、概ねの車種において最大140個まで保存が可能です。保存容量がMAXになった場合、過去データを上書きして新しいデータが記録される仕組みとなっており、データ確認作業中、うっかり新しいデータが保存されないよう、必ずデータを保存してから作業を行うことが重要です。

また、電子制御装置整備において、各種エーミング作業の実施後に車両制御履歴の消去が求められます。学習値の再学習や登録設定などを行った際は車両制御履歴を記憶するケースがあり、その場合、車両制御履歴を消去してから車両を返却するよう、整備要領書に記載されています。

【iPad専用 エーミング作業支援アプリ】 楽々エーミング RAKU-EB
ブラインドスポットモニター対応モデル
iPad専用アプリでエーミング作業を効率化！
計測から設置まで1人でも簡単にエーミング作業可能！
マーカー設置図に従って画面をタップするだけで、iPadの画面上にターゲットの設置位置が表示されます。
ベンレスモード
タッチペンモード
ブラインドスポットモニターのターゲット設置位置が表示されます
※アプリのご使用には「2020年モデル以降 第2世代LiDARスキャナ搭載：iOS15.1以上」のiPad Proをご用意ください
OBD検査用 スキャンツール IS-J2534 nano
NEW
トータルサポートツールに進化する新時代の検査機器
DoIP / ISO13400
次世代通信プロトコルに対応
Bluetooth
ワイヤレスタイプ（有線にも対応）
オプション 整備用スキャンツールとしても使用可能
一般社団法人日本自動車機械工具協会 型式試験番号 JASEA-KS-34
販売元 株式会社イヤサカ 本社/〒113-0034 東京都文京区湯島3-26-9 TEL.03-3833-6110 / FAX.03-5688-7074 https://www.iyasaka.co.jp/

月別リサイクルパーツ別実績　2024年11月～2024年12月（全国）

内　訳	2024年 11月 数　量	2024年 12月 数　量	合　計 数　量
フロントバンパー	269	280	549
リヤバンパー	215	188	403
ヘッドライト	405	371	776
ボンネット	129	126	255
フェンダー	275	282	557
ドア	438	456	894
トランクリッド・リヤゲート	125	132	257
テールランプ	292	265	557
その他※	2,098	2,068	4,166
合計	4,246	4,168	8,414

※その他＝エンジン・ミッション・ラジエター・コンデンサー・コンプレッサー・フロントガラス等のリサイクルパーツ（新品パーツは除く）

BSサミット販売促進委員会

リサイクルパーツ普及拡大に向けて

一般ユーザーも活用できる中古パーツの新しいマーケットプレイス

事故車修理時のコスト低減は、損害保険会社やユーザーにとっても、ますますニーズが高まっております。ＢＳサミットでは、環境負荷低減とともに、こうしたコスト削減に寄与することを目的として、販売促進委員会を中心とし、自動車補修部品のリサイクル促進を進めています。今後とも積極的なリサイクルパーツの活用をよろしくお願いします。

ＢＳサミットの協賛企業で自動車補修用リサイクルパーツを販売するビッグウェーブと、クルマの情報サービス「モビフル」を運営するユニオンエタニティは、自動車の中古パーツが売買できるマーケットプレイス「モビフルパーツ」を１月15日にオープンしました。同サイトでは、自動車解体業の許可及び古物商許可証の提出を必須とすることで盗品の出品等を防ぎ、一般ユーザーが安心して利用できるプラットフォームの運営を目指しています。また、検索機能に強みを持ち、型式で検索できることはもちろん、兄弟車種から求めている中古パーツの検索が可能だそうです。一般ユーザーも活用できる自動車中古パーツの新しいサービスの今後には注視が必要です。

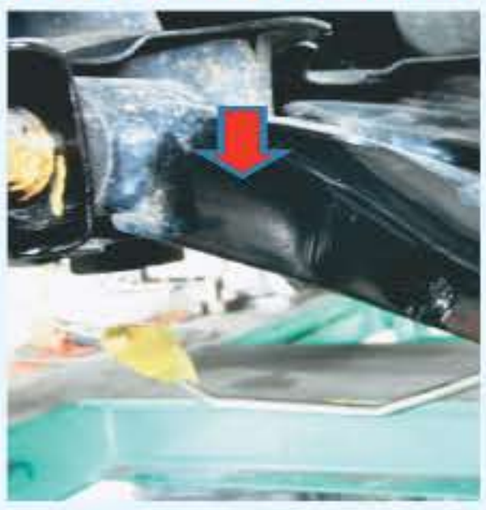
ストップ！粗悪修理!!

「ストップ粗悪修理」は、次世代自動車研究委員会や広報委員会を中心に収集している他社工場での粗悪修理情報を、ＢＳサミットニュースやカーケアプラスなどのメディアを通じて公開しております。

不具合車両の撲滅とユーザーへ安心と安全を提供すべく、本来あってはならない修理不具合・不正修理の現状・実態を明らかにし、適切な修理を行うことの重要性を呼びかけております。今後とも主旨をご理解いただき「修理不具合情報」のご提供をよろしくお願いいたします。

不完全修理例 ①　走行中に異音！調査の結果、ボディにサスペンションスプリングが接触した跡を確認！！

走行中の異音の訴えがあり、点検のため入庫しました。調査の結果、サスペンションスプリングがボディに接触した跡が確認されました。また、サスペンションロワアームとドライブシャフトが曲がっていることも判明しました。この状態では、最悪の場合重大な事故につながる可能性が非常に高いです。修理を行った工場名は不明ですが、安全性に大きな問題があるため、迅速な対応が求められます。



この様な不具合車両をなくすために、皆様からの情報提供をお待ちしております。

不完全修理例 ②　ヘッドランプとフロントフェンダーの隙間を隠すためにシーリング材が挿入！？

フロント事故で入庫した車両にて、損傷確認のため前方部品を外したところ、以下の不具合が確認されました。

・ヘッドランプとフロントフェンダーの隙間が適切でなく、隙間を隠すためにシーリング材が挿入されていました。
・ヘッドランプの光軸調整ネジが外れており、段ボールとガムテープで仮固定されていました。

これらの状況から、以前の事故修理で適切な修理が行われず、正しい車体寸法が出ていないと推定されます。その影響として、フロント骨格部下に錆が発生していることも確認されました。今回の点検で、過去の修理が不適切だったことが判明しました。粗雑な修理により車両の安全性が損なわれているため、早急な対策が必要です。

自動車整備業に関わる皆さまのお役に立ち続けるため

未来の地球環境を明るく照らし続けます。

さらなるCS向上へ向けたリサイクルパーツの提案に

リサイクルパーツ発注システム
Reparts Direct System
リパーツダイレクトシステム（RDS）

皆様が、安心して「リパーツダイレクトシステム」をご利用いただけるよう「BSネットワークコールセンター」の専任スタッフがお客様がご発注いただいたパーツの適合確認をさせていただき正確な部品発注をサポートしております。

自動車リサイクル部品のお問い合わせは
BSネットワーク コールセンター
Tel.052-441-7603（平日9:00～18:00）Fax.052-441-7628

Recycle&Repair BIG WAVE　JARA
株式会社ビッグウェーブ・株式会社JARAは協同し合い常に最高品質の自動車リサイクル部品の生産と販売に取り組んでいます。

BSサミットの先進性をアピールし組織の増強を目指す！

IAAE 2025にBSサミットブースを出展

自動車アフターマーケットの祭典「第22回国際オートアフターマーケットEXPO 2025（IAAE 2025）」が、今年は2月26日（水）から28日（金）の三日間、東京ビッグサイト 東5～6ホールで開催される。IAAEは、自動車の整備・メンテナンスをはじめ、自動車を取り巻く環境・インフラなど、様々な自動車アフターマーケットに関する最新情報、業界動向について、セミナーや実演・展示などによって情報を発信する場として知られる、自動車アフターマーケットにとって有意義なビジネス交流の場を創出するコンベンションである。今回は、国内外11カ国より389社・団体、716小間の自動車アフターマーケット関連事業者が出展を予定しており、過去最大規模の開催となった昨年度同等の規模での開催となりそうだ。

注目の出展者

中国からは、補修用スプレー塗装ロボットシステムPaint Go「Wuhan One Technology」が初出展。また欧州ドイツからも、デントリペアとAIを活用したデント評価のグローバルリーダーとしてワールドワイドで活躍するDRSオートモーティブソリューションジャパンと、研磨剤やパテ、クリアコート、アクセサリーなど自動車補修製品の大手サプライヤー4CRが初出展する。国内ではオートアフターマーケット東北・九州で話題となった自動車部品のグローバルサプライヤー「アイシン」が、新しい水性補修塗料（ベース&クリア）の展示を行う予定だ。個社として、また組織としても、最新のビジネス情報を得る場所として活用して欲しい。

BSサミット事業協同組合としても、当組合の先進的な取り組みを業界関係者に広くアピールすべく、今年も協賛会社各社とともにブース出展を行う。今回BSサミットブースでは、株式会社あかつき、アクサルタコーティングシステムズ合同会社、株式会社EBE、株式会社イヤサカ、株式会社オリジン、株式会社ケンテックスの、計6社の協賛会社とBSサミット事業協同組合が展示を行う。さらに昨年、試験的に設けたBSサミットブース内のプレゼンテーションコーナーを今年も用意し、協賛企業各社の製品・サービスを訴求する場、かつBSサミットの組合員拡充のPRを行う場として活用する予定だ。

注目のセミナー

会期中は、行政関連をはじめ、自動車アフターマーケットの"今"や"将来"について語られるセミナーが数多く実施される。BSサミット関連セミナーとしては、会期2日目の27日（木）に、業種の枠組みを超えて自動車アフターマーケットの活性化を目的に実施される、IAAEの目玉企画「オートアフターマーケットサミット2025」にBSサミットの藤野副理事長（福岡支部・朝日自動車株式会社）が登壇予定で、会期3日目の28日（金）には、車体整備・損害保険関連のセミナーとしてBSサミットの磯部理事長が登壇するセミナー「車体整備と損害保険の融和点を探る～道徳と経済の両立をめざして～」が予定されている。

その他にも会期初日の26日（水）には、経済産業省商務情報政策局 サイバーセキュリティ課が「サプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ対策」、厚生労働省が「化学物質による健康障害防止に向けた取り組みの重要性について」、独立行政法人自動車技術総合機構が「自動車検査の現状と今後の取り組み」など、行政関連セミナーが多く予定されている。また会期2日目には、「地方における地域連携と事業継承の最前線」と題したセミナーが企画されている。これは鳥取県琴浦町で進む連携について話されるセミナーであり、特に地方で活躍するBSサミット組合員工場に聴講してもらいたい。会期3日目には、自動車メーカーのホンダが展開するサプスクリプションに関するセミナー「メーカーが取り組む自動車販売の新しい潮流と今後の展望」が行われる。今後の車販のみならず保険販売、整備、修理にも影響がでる自動車メーカーの国内販売戦略を正しく理解するためにも有効なプログラムである。昨年（IAAE2024）から全セミナープログラムが無料で聴講できるようになっているので、ぜひ聴講して欲しい。

BSサミット事業協同組合関連セミナー

出展者プレゼン

2月27日(木) D-23 13:00～13:45 ▶セミナー会場D
5年後の整備事業者のあるべき姿を見据えて
BSサミット事業協同組合 組合員拡充委員長 坂井 光藏 氏

車体整備・損害保険

2月28日(金) A-31 10:30～12:30 ▶セミナー会場A
第一部
車体整備と損害保険の融和点を探る
～道徳と経済の両立をめざして～
BSサミット事業協同組合 理事長 磯部 君男 氏
第二部
車体整備の多層化と高度化
～自動運転と電動化がもたらす事業構造の変化～
株式会社ピーライト 代表取締役会長 小野 隆二 氏

オートアフターマーケットサミット

2月27日(木) A-21 10:30～12:00 ▶セミナー会場A
オートアフターマーケットサミット2025
～速まる事業環境の変化を正しく捉えるために～
BSサミット事業協同組合 副理事長 朝日自動車株式会社 代表取締役 藤野 利浩 氏
アフターマーケットサプライヤー活性化委員会 代表幹事 中村オートパーツ株式会社 代表取締役 中村 秀隆 氏
一般社団法人自動車用品小売業協会 会長 株式会社オートバックスセブン 特別顧問 小林 喜夫巳 氏
リビルド工業会全国連合会 会長 有限会社日黒ライニング商会 代表取締役 深澤 広司 氏
JU埼玉オートオークション株式会社 代表取締役社長 佐藤 誠 氏

組合員募集のプレゼンテーションを実施

BSサミットは、IAAE出展を通じて新たな組合員の募集を行う。会期2日目の27日（木）13時からは「5年後の整備事業者のあるべき姿を見据えて」と題した出展者プレゼンテーションを行う。坂井委員長は、整備事業者に対し"WP29を知っているか？"と疑問を呈し、「自動車のIoT化が進みサイバーセキュリティ対策が不可欠になった時に、我々整備事業者は従来のように整備や修理を行えるのだろうか」と危機感を口にする。そのうえでBSサミットが、来るべき未来に備えていち早く対策を練りDMS（メーカー・ダイレクト・メンテナンス・ソリューション）という形で実行に移していることを告げる。自動車アフターマーケットの上流に位置する自動車メーカーが、どんな環境に置かれており、どんな制約の中で自動車の開発を行っているのか、それを知らずして今後の自動車アフターマーケットについて語ることは難しい。45分間のプレゼンテーションを通じて、その概況と解決に向けた方策について説明が行われるので、情報を入手したい整備事業者の方、また整備事業者にそのような情報を届けたい損害保険会社やサプライヤーの方に、ぜひ足を運んで頂きたい。また、BSサミットブースのプレゼンテーションコーナーでも会期中は、簡易版のプレゼンテーションを行うので27日の都合が合わない場合はブースにお越し頂きたい。もちろんブースには説明員が常駐しているので、個別の相談にも対応可能だ。次世代自動車時代への第一歩として、まずは行動を起こして頂きたい。

自動車の進化に伴う様々な法改正

自動車業界 100 年に一度の大改革期の真っ只中にあり、政府主導で自動運転技術や運転支援技術の普及を目的とした様々な法改正が続いています。そして今年 2024 年はいよいよ、特定整備の経過措置期間が終了し、OBD 車検の運用が開始され、モビリティサービス事業者に求められるハードルは益々上がります。BS サミットは、モビリティサービスのリーディング組織として、時代の潮流を詠み様々な難局を乗り越えるべく、常に先を見据えた取り組みを行ってまいります。